2016 SUMMER 中央区議会 自民党レポート 創刊号

LIBERAL & DEMOCRATIC REPORT

発行者：中央区議会自由民主党議員団政務調査会　〒104-8404　中央区築地1-1-1

20年後の中央区の将来像を展望

新しい基本構想づくりが始まりました！

20年後の将来像を展望し、中央区の行政運営の指針となる新しい「基本構想」の策定に着手しました。本年2月に「基本構想審議会」を設置し、5月からは学識経験者、区内公共団体の代表者、公募区民などで構成される専門部会（「安心部会」・「快適部会」・「躍動部会」）において、活発な論議が行われています。10月～11月頃にかけて中間のまとめを行い、パブリックコメントを実施。そして、平成29年2月を目途に答申を取りまとめ、6月の区議会第二回定例会における議決を目指しています。

Q1 「基本構想」とはどのようなものですか？

A 今年生まれた赤ちゃんが成人を迎える頃、未来の中央区はどのようなまちであることを望みますか。私たち区民が願う20年後の中央区の将来像を描き出し、その姿を実現するための方向性と目標が「基本構想」に掲げられます。

「基本構想」は、区と区民の皆さまの「まちづくりの憲章」であり、行政運営の指針となるものです。

Q2 現在の「基本構想」について教えてください。

A 現在の基本構想は、平成10年6月に策定されました。

「生涯躍動へ 都心再生 ── 個性がいきる ひととまち」を将来像とし、3つの基本目標を定めています。

①思いやりのある安心できるまちづくり

②うるおいのある安全で快適なまちづくり

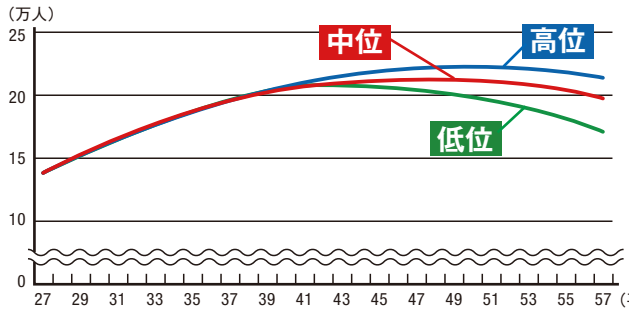
③にぎわいとふれあいのある躍動するまちづくり

この基本構想の方向性をもとに、実現のための基本計画を策定し、さまざまな行政施策を展開しています。

Q3 なぜ今、新しい基本構想づくりが必要ですか？

A その背景には本区を取り巻く環境・状況の大きな変化があります。平成10年には7万2千人まで落ち込んだ定住人口が、現在では14万人を超え、平成36年には20万人を突破することが見込まれています。

■中央区の人口推移



2024（平成36）年頃には、**20万人を突破する**見込み。

□高位のピークは、2037（平成49）年頃で、約23万人。

□中位のピークは、2033（平成45）年頃で、約22万人。

□低位のピークは、2031（平成43）年頃で、約21万人。

また、2020東京オリンピック・パラリンピック大会後を見据えた新たなまちづくりや、人口が急増する勝どき・晴海地区へのBRT導入、地下鉄新線誘致など交通網整備も確実に推進していかなくてはなりません。

さらに、80年の歴史を誇る築地市場は、本年11月に豊洲に移転することから23ヘクタールという貴重な公有地の活用は、本区のまちづくりを大きく左右します。

これらの点を踏まえつつ、「20万都市」も視野に入れながら、区民の皆さまとともに平和で明るい未来を描くために新しい基本構想づくりに取り組んでいます。

自民党会派の活動

14日間にわたり、区内各種団体の代表の皆さまと、基本構想策定に向けての意見交換会を行い、将来を展望した今後の区政のあり方について、ご意見ご要望をヒヤリングしました。その後、自民党会派全議員による政策審議の場である政務調査会において、複雑かつ多岐にわたる各種要望事項の論点整理、区理事者との意見交換を踏まえ、基本構想審議会に反映させています。また、その内容によっては、区への緊急要望を行うとともに、平成29年度予算編成に関わる政策要望書へも組み入れていきます。まちづくりにおける区民の皆さまのご意見ご要望を自民党議員団にお寄せください。

区議会自民党は、明るい中央区の未来づくりに向けて、区政運営の先頭に立っています。

「築地魚河岸」10月15日オープン

築地場内市場が11月に豊洲に移転することから、食文化の中心である築地の活気とにぎわいを絶やすことなく、食のプロが持つ文化と技を継承していくことを目的として、新たに「築地魚河岸」が開設されます。同施設は、場外市場に位置する区有地6.000㎡（小田原橋臨時駐車場ならびにバイク自転車等置場）を活用して、小田原橋棟（地上3階）海幸橋棟（地上2階）2棟が建設されました。水産・青果など場内仲卸業者約60店舗が出店し、業務卸にも対応した店舗として開業されます。また、小田原橋棟3階には、「食のまち築地」の活気とにぎわいに資する場とするため、食育の視点や築地ブランドを高めるイベントなどに活用できる多目的スペースも設けられました。

名称募集については、451点もの応募をいただきました。「築地魚河岸（つきじうおがし）」に決定した理由は、「施設の所在地であり銀座や日本橋とならび中央区内の著名な地名である「築地」と、魚市場の表現として一般的な「魚河岸」を合わせた名称で、施設の性格がわかりやすく表されています。築地市場移転後にあっても築地の活気とにぎわいを維持・継承する地域の中心的施設として相応しい名称であることから選定しました。」（中央区HPより）と、されています。

場内市場移転後も、「築地魚河岸」を拠点施設として場外市場が食文化の中心として、今後もさらに発展を遂げるように取り組んでいきます。

都心と臨海地域を結ぶBRTが遂に実現へ

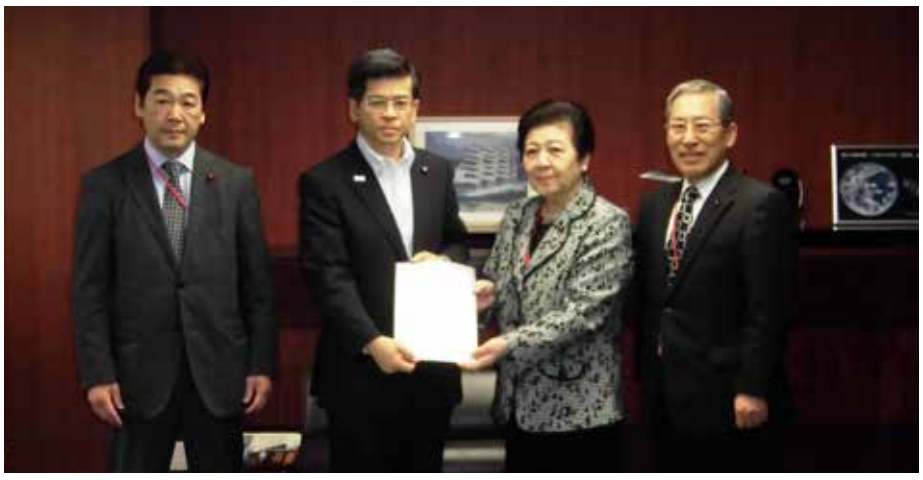
勝どき・晴海地区は都心から約6㎞圏内に位置し、東京オリンピック・パラリンピック競技大会では、晴海5丁目に選手村の整備が予定されています。終了後は住宅として転用されることから、学校施設や医療機関などをはじめとする社会基盤整備を行い、新たなまちづくりを推進していかなくてはなりません。

同地区は、東京駅から約10分という好立地にありながら、公共交通基盤が脆弱な為、残念ながら交通不便地区のひとつに数えられてしまいます。

2020東京に向けて、輸送力強化のために東京都は京成バスを委託事業者として、前年よりBRT（連結バス）の運行をスタートさせます。オリンピック後は、これらを活用して生活路線として利便性の向上が図られるように、公共交通網の整備、充実に向けて、関係機関との調整、協議を進めていきます。

都心部・臨海地域地下鉄構想を答申（臨海部～銀座～東京）

勝どき・晴海地区の急激な人口増による駅の混雑緩和や通勤・通学時の利便性向上のために、大量輸送機関である地下鉄新線の誘致は不可欠です。今まで、中央区・区議会・地域が三位一体となり、積極的に誘致活動を展開してきました。本年4月、国土交通省（※交通政策審議会）において、国際競争力の強化に資する鉄道ネットワークのプロジェクトのひとつとして「都心部・臨海地域地下鉄構想の新設及び同構想と常磐新線延伸の一体整備について」が答申され、実現に向けて大きな一歩を踏み出しました。

6月7日には、石井啓一国交大臣に対して、正副議長ならびに会派幹事長が、緊急要望を行いました。これからも、あらゆる可能性を模索し、早期実現に向けて取り組んでいきます。

※交通政策審議会
国土交通省設置法に基づき国土交通省内に設置された審議会で、国土交通大臣の諮問に応じて、交通政策の重要事項を調査審議する機関。